

# 1. 調査報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成20年12月25日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2770900856
法人名	医療法人 杏仁会
事業所名	グループホームブルーベリー
所在地	高槻市東和町57番1号 (電話) 072-671-0441
評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成20年12月8日

## 【情報提供票より】(平成20年11月21日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 10年 10月 15日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	9人	常勤	7人, 非常勤 2人, 常勤換算6.7人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	階建ての 階 ~ 階部分

### (3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	13,650円	
敷金	有( 円) ③			
保証金の有無 (入居一時金含む)	④ (200,000円)	有りの場合 償却の有無	④ / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,575円			

### (4) 利用者の概要 (平成20年11月21日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	3名	要介護2	5名		
要介護3	1名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 89歳	最低	82歳	最高	99歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	北摂総合病院、おかだクリニック、OKADA DENTAL CLINIC
---------	-------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療法人が運営する老人保健施設に隣接したグループホームは、地域住民の求めに応じて開設されました。法人の広い敷地内にあり、平屋建てで屋外に出ても危険の少ない落ち着いた生活環境を整えています。ホーム内ではチームワークの取れたベテラン職員達により『ゆっくり、いっしょに、楽しむ』をキーワードに、一つの家族として利用者がゆったりと生活が送れるよう支援しています。法人の広い敷地内には1年中ハーブや草花、野菜が育てられ地域住民の集まりの場として利用されています。利用者の多くは周辺地域の方が多く、毎日の散歩や老人保健施設・デイケア利用者との馴染みの関係を継続する生活ができています。同法人は他にも居宅支援事業所やクリニックも運営しており、『医療・介護・福祉』と多方面に連携の取れた支援を行っています。今年度は市の要請により『子育て支援事業所』を開設し、多世代にわたり地域住民の要望に応じています。子どもとの交流により、利用者から自然に生まれる笑顔を大切に日々の生活を支援しています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4)
	前回の外部評価での改善課題は8項目ありました。外部評価に対して職員全員がレポートを提出し、会議で改善すべき点について検討を重ね対応した結果、5項目は改善できました。「運営推進会議の開催回数」「同業者とのネットワークづくりや勉強会によるサービスの質の向上」「災害対策のための食料品等の準備」に関して更に改善検討中です。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員は前回の外部評価結果についてレポートを作成し、今回はそれらを基に、自己評価の作成について意見を出し合っています。また作成した自己評価は全職員で周知しています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議に今年は市の担当者の出席が1回あり、助言を受けました。民生委員からは地域交流に関する情報を得ています。前回の外部評価結果および改善検討内容についても報告しています。利用者や家族にも説明し、意見をj得てサービスの向上に活かしています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の面会時には必ず近況報告を行っています。また年に数回、利用者家族の交流のための催しを行い、その際には意見交換の場を設け、玄閑協の意見箱への投函より、直接要望等を伺うことができます。前回のアンケートで問われていました外出頻度については今年度から発行した季刊紙を活用し、外出記録の報告を記載し喜ばれています。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	開設当初から地域との連携を重視した取り組みをしています。法人主催の「ローズマリー祭り」に今年は400人以上の参加があり、グループホームの利用者・家族も参加し交流を図ります。今年2月から市の要請を受けて同法人内に「子育て支援事業所」を開設、老人会だけでなく子どもたちとのふれあいの場ができ、利用者から自然に笑顔が生まれています。小学生・中学生の訪問、老人会・ボランティアとの交流があり、地域の催しにも積極的に参加しています。

## 2. 調査報告書

(   部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念でもある『輝いて共に生きる』をグループホームの理念にしています。「地域の住民との交流を深め、住みよい環境づくりを行っていく」という方針を掲げ、日常的な支援に活かしていくように取り組んでいます。利用者・職員・家族は一つの家族であるとの考えをもとに『ゆっくり、いっしょに・楽しむ』を目標にしています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は職員に日常の支援の中で理念を实践するよう伝えています。リビングには『家族の約束事』5か条を掲示し、「利用者・職員・家族」の皆で相談して解決するケアを实践しています。理念は、総合玄関には掲示していますが、ホーム内にも理念や方針を掲示し、新任職員や訪問する家族にも浸透していくよう働きかけが望まれます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	開設当初から地域との連携を重視した取り組みをしています。今年2月から市の要請により『子育て支援事業所』を開設し、隣接のデイケアの2階に部屋を設け、子ども達との自由なふれあいの場になっています。恒例の法人の祭りに今年は400人以上の参加がありました。小学生・中学生の体験学習訪問・老人会・行事へのボランティアの応援など交流があります。また、地域の盆踊りや小学校の運動会などへ参加します。近隣住民の便宜を図り、敷地内を通り抜けていただくことにより、顔見知りの関係を築かれ、地域の方とふれあい機会になっています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前年度の外部評価結果については職員全員が目を通した上でレポートを提出し、会議で改善すべき点についての検討を重ね対応しています。今年度の自己評価票の作成については、職員が意見を出して作成し全職員に周知しています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には市の担当者に1回出席していただき、外部評価への取り組み状況等について報告しています。民生委員からは地域の催物への参加・出展について情報を得ることができます。利用者や家族から出された意見をもとにサービスの向上に活かしています。20年度は今までに3回開催しています。	○	運営推進会議は2ヶ月に1回、年6回程度の開催が求められます。市の担当者が参加できない場合、地域包括支援センター職員の参加を要請してはいかがでしょうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への出席もあります。10月末には市の実地指導を受けており、サービスの質の向上に反映しています。また、市主催の研修会や集団指導・講習会には積極的に参加しています。今年は市の依頼により『子育て支援事業』を法人で受け活動しています。市内のグループホーム連絡会などの開催について、市の担当者に援助を要請しています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が面会時には必ず近況報告を行い、預かり金には領収書及び収支明細を家族に渡し、金銭出納帳にはサインをもらっています。季刊紙『ブルーベリー便り』を発行し、ホームでの行事・生活の様子を知らせています。家族からの要望が多い外出については、季刊紙の一部に利用者一人ひとりの『外出記録の報告』を記載し、家族に喜ばれています。また、職員の異動もブルーベリー便りにて報告し新しい職員を紹介しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの玄関に意見箱を設置し、常に要望・苦情を受け付けています。しかし、この1年特に寄せられ苦情等はありませんでした。年に数回、家族の交流のための催しを行い意見交換の場を設けています。家族の面会時にも職員は対話を図り、運営推進会議で出された意見も反映させています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内職員の異動は最小限にしています。異動または離職する場合は十分な引継ぎの期間を配慮し、利用者への影響を少なくしています。交代する職員は同一法人内での経験者を配置するよう配慮しています。新しい職員が入る場合は利用者や家族に紹介し、『ブルーベリー便り』に写真と共に掲載し紹介しています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常勤・非常勤を問わず、法人内の定期勉強会へ参加しています。研修内容として『緊急時対応』『認知症』『感染症』が含まれています。研修出席者からミーティング時に研修内容を伝達しています。年2回以上の外部研修を受講し伝達しています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との連絡会はまだ、行われていません。地域密着型サービスに関する集団指導を受けた際に、連絡会の開催促進への助力を市の担当者に働きかけています。全国レベル、大阪府下対象のネットワークには加入していません。	○	市の担当者にも助言を働きかけているとのことですが、地域の同業者や関連事業者との学習・交流の機会が持てるよう取り組むことが求められます。また全国レベル、大阪府下対象のネットワークへの加入も検討されてはいかがでしょうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の見学や入居時の面接には本人と家族と一緒に来訪してもらい、職員や利用者との事前交流の機会を持ってもらっています。入居直後は、場所や雰囲気馴染めるようにサポートしています。デイケアの利用で職員や利用者に馴染みのある方が入居される場合があります。安心した生活につながっています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中で、料理・配膳・掃除等の家事は利用者の得意分野で力を発揮していただいています。日常の家事作業を20項目に細分化し、担当する方の名札を掛けています。お互いに協働しながら、職員も学び支え合う関係を大切にしています。季節ごとのリビングの壁面の装飾は利用者と共に作成します。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声かけを行ったり、言葉や表情などから利用者の思いを推し量ったりすることによって、暮らし方の希望や意向を把握し、最良の方法を家族も交えて検討しています。「これまでの暮らしの情報」「暮らしの現状」「わかること」「わからないこと」を記録し、職員は周知しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントを行い、利用者や家族の意見・要望を充分取り入れ定期会議で検討し、職員の意見を反映した利用者本位の介護計画を作成しています。職員全員が介護計画を確認した確認印があります。また家族にも同意のサインを得ています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月毎に主治医の意見も取り入れた定期的なモニタリングに加え、必要に応じてカンファレンスを行い、介護計画の見直しを行っています。また、必要に応じて本人や家族を交えた話し合いを行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同法人が医療系であり、健康管理や医療連携の面で積極的に取り組んでおり、定期往診や緊急時の対応など、柔軟な支援体制を敷いています。利用者や家族の安心を得ています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同法人の医療機関との連携により、月2回かかりつけ医の往診を受けています。また、利用者の希望に応じて、入居前からのかかりつけ医への定期受診は、家族の協力のもと受けられるよう支援しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時にグループホームで対応し得る支援方法について説明を行い、家族の了解を得ています。重度化した場合や終末期の看取りはこれまでありません。必要時には家族・主治医・看護師を交えて話し合いを行い今後の方針を共有しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の人格を尊重して、誇りやプライバシーを大切にされた対応をするように努めています。個人情報に関する規定等が定められており、職員への周知は徹底され、入職時にも誓約書を提出しています。利用者の記録等個人ファイルの保管場所は、利用者や第三者の目に触れにくい場所にするよう検討が望まれます。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日をどのように過ごすかは利用者の希望にそっています。日々の家事作業は20項目に分けて掲示してあり「出来ること」「したいこと」の各項目へ自分の名札を下げてもらっています。午後の散歩・買い物・デイケアへの参加・自室での手作り作品づくり等、それぞれの希望に添った支援をしています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝・夕の食事はホームで職員が利用者と共に調理します。利用者の希望を聞き、旬の食材や新鮮な物を採り入れたメニューを工夫し、毎日食材を買いに出かけます。利用者と共に調理・盛り付け・お茶の準備・配膳・片付けも行います。ご飯は各自の茶碗に自分で盛り付けます。それぞれ自分のできること、したい役割を見つけ楽しみながら過ごされています。職員も利用者と共にテーブルを囲みます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は夕食後、ゆったりとできる入浴を実施しています。週2回程度のサイクルになっていますが、シャワー浴など必要に応じて臨機応変に対応し、また希望に応じて入浴回数を増やしています。日中に入浴時間を取ると様々な活動や、外出の機会が減ることを懸念しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は毎朝ラジオ体操を行い元気のもとになっています。墨絵・手芸・折り紙・観葉植物の世話・リビングの壁面の装飾等、得意なことをそれぞれのペースで行い、日々の生活を楽しんでいます。また、『子育て支援』の場となったデイケアでの子どもとの触れ合いにより、笑顔が自然に生まれるなど、利用者にとって新しい楽しみになっています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の天気、体調に合わせて本人の希望に添って外出の機会を作っています。スーパーマーケットへの買い物、外食、家族と共に外出などの他に、法人敷地内にある『ガーデン』を巡る周辺散歩や隣接のデイケアへの参加、子育て支援の子どもたちとのふれ合い等、入浴を夜間に設定することにより、午後の戸外活動を活発に行っています。「外出サポートマニュアル」を作り『外出記録簿』に毎日記録し、家族に報告しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中はホームの玄関には鍵をかけていません。面会の家族やボランティアの方も自由に訪ねることができます。開放的で自由なホーム作りを目指しています。戸外は法人の敷地が続き、同一法人事業所の職員が見守ったり、近隣住民が敷地を通り抜ける際、声をかけたりする等の見守りがあります。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防防災避難訓練は法人全体として年1回、消防署の協力を得て行っています。それ以外にも自主避難訓練を行い、近隣の自治会には災害時の支援、協力を依頼しています。非常用食料品の備蓄は法人として行っており、グループホームでは飲料水を少し保存しています。	○	ホーム独自の災害対策としての食料品、飲み水、オムツ等をホームにも備蓄することが求められます。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	昼食は法人内の厨房から調理済みの物が届けられます。朝・夕食のメニュー作成については同法人所属の管理栄養士に相談しチェックを受けています。3食の摂取量・水分摂取量を把握し記録しています。お茶の時間にはハーブ園で採れたハーブティを供し、体調調整に役立てています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者全員と一緒に大きな食卓を囲み、職員と共にゆったりと食事を摂ることができます。食堂に続く居間にはゆったりとしたソファがあり、寛ぎながらテレビを見ることができます。居間のガラス戸越しに庭や田畑が広がり季節を感じることができます。玄関やフロアーには花や植物が絶やさず配置され、訪問する家族からも喜ばれています。壁面には利用者と共に作った季節感のある壁面の装飾があります。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室毎に色を変えた壁紙により個性的な室内となっています。入居時には自宅で使用していた布団や家具を持参してもらい、馴染みのある室内環境が整えられています。家族の写真・自作の絵や手芸作品・折り紙・観葉植物を飾っています。机・椅子・筆筒・ミニ仏壇・テレビ・時計・ぬいぐるみ・湯茶セット等好みの物に囲まれて居心地よく過ごす工夫をしています。		